

同窓会報

第39号

発行 宮城県仙台第二高等学校
 同窓会事務局
 仙台市青葉区川内殿橋通一
 番二二一―五六一(直通)
 印刷 創文印刷出版株式会社
 仙台市青葉区春日町八番三十四号

巻頭言

会長 西澤 潤一



近頃は、大分ずれてしまったが、本来は、教育を享けた人間は、それなりに成長する。そして学校を卒業した。近代になって、人間一人一人の能力を認識することが容易でないものだから、予定のコース通り勉強をし、余りあてにならない試験を通れば卒業と云う認定をつけて、一種の免許を与える。こうなると便宜主義が横行しはじめ、本人の身についた能力を見る替りに、免許があるか否か、卒業証書をいただけたか否かで済ます。そのうちに、能力の方よりも免許つまり卒業証書の方だけで教育効果を判断するようになる。

こうなると、勉強のやり方まで変ってしまつて、訳も分からぬのに、ひたすら暗記することが意識的に行なわれる。日本の若者は、国際的な活躍を必要とするから、小学一年生から英語を勉強させようといふ。と云われているのにこの数百年の日本と外国との間のいろいろな事件については何も知らない。これでは、それらの国々が、恩義に感じて心から感謝の気持ちをもって接してくれているのか、何等かの悲しい事件があつて、復讐の念に凝り固まつていることについて、知つていて折衝しているのとは、知らないで接しているのとは、大変に大きな差異があるから、国際的に活躍する筈の日本の若者も、語学より以上に歴史を知つていることが望ましい。それがこちらが受験科目でないためらしいが、授業がなかったというありさまである。

養学部には、おいて、教育問題を調査しておられ、この間のことを行本として出版された。ある日、どこかの大学から帰つて来られて、「呆れたね。あの大学じゃ、大学の物理の学生に高校の物理の補習授業をしていたよ。」と云われたら、「何云つてるんですか、うちだつてやっていますよ。」と云われた話が記載されている。大学の物理に入学した学生が、何で高校物理の補習講義を受けなければならぬのかと云うことは、大抵のOBにとつては大変な疑問である筈である。我々物理に入らなかつた者にとつても、そんな必要があつたら、一夜漬けて何とかするのが常識なのに、わざわざ講義して貰わなければならぬところにも、現代教育の中にある問題を示唆しているだろう。

小学校・中学校・高等学校・大学と進むにつれて、理科とか物理とかいう深い知識体系として教えられるようになってくるから、大学で講義を聞いていけば、高校で教えてもなるといふ理科は必要がなくなる。よく事象を把握すれば、わざわざ高校物理を補講しなくても、大学で勉強するだけで充分な筈なのである。それが、日本最高と考えられている大学に於てすら、ということになつてしまつているのは、既に勉強が実力をつけることから外れてしまつて、偏差値の高い大学に入って、偏差値輪切りに対応する方に重点が移つてしまつていると云わなければならないのだから。

勿論、これも大切なことで、高偏差値校にも、仙台二高からどんどん入学してくれなければ矢張り困るのだが、将来は、実力がつくように教育すれば、どしどし高偏差値校に入るという風になることが望まれるのは当然である。勿論、そんなには容易なことではあり得ないが、本校には、敢えて文武両道を目指してちゃんと実績を挙げられた実績もあつた。また、本校教頭として在籍された山下先生は教育長になられたとき、中学に指令を出して、一番から十番までは一高に、十一番から二十番までは二高を受験させた。ところが、その後、東北大学などの上級校への入学者は二高が一高を凌ぐということになったのは御存知の通りであつた。教授になったのも二高がかなり多い。これを思い起こせば、扱、我々の母校は今や重大な危機に直面している。それは共学化の問題である。人間はいろいろな行為し行動して、やることを改善してきて今日の断然すぐれた文化を構成してきた。しかし、変える時には慎重でなければならぬ。素晴らしい女性を同級にもつたら、平静な気持ちで勉強にいそむむということは難しいのではないかと当時の自分の気持ちを思い出しながつた。取越苦労をしてみよう。まあ大学ぐらにならなければかなり広く世間も知り、具体的に手鍋ぐらい提げれば生活も出来るようになっていけるが、大志を懐いた人間は育つまい。高校では未だ無理と云うものではないか。米国に行くとうと大学同棲寮というのがあつて、卒業すると手を振つて別れてゆく。生れた子は孤児院に入る。こんな不幸な子供を作つてしまふのは決して賛成出来ることではない。悪いことが解ればやめなければならぬ。法律がそうなつていけるからと云つて、立派な人間を教育するに差し支えのあることを実行するのは本来誤つていけると云わねばならない。

教育の基本方針

同窓会副会長

高9回卒 麻喜 宏雄



第一問「教育勅語」を記せ
第二問「教育の目的」を百
字以内で記せ

一九五四年（昭和二十九年）
入学直後、一年生時の一学期
末「一般社会」の試験問題で
した。戦後九年を経て、既に
廃棄された教育勅語が話題さ
れるとは仰天。担当教師は
後の宮教大校長になられた
「チャップリン」こと伊藤光
威先生。小六法で憲法以下主
たる法律を、ざっと拾い読み
した一学期、この二問に立往
生した事を、五〇年以上経っ
た現在も鮮明なる記憶として
残っております。

一八九〇年、明治天皇の勅

語として発布された教育の基
本方針、儒教思想に基いた忠
君愛国の精神を「朕、惟ふに
我が皇祖皇宗……」と諳んじ
て見たものの筆進まず空文。
最後に「御名御璽」と結語し
て零点。天皇主権が否定され、
不適切表現とされた部分を墨
で塗り潰し封印された教科書
で学んだ小学校（国民学校）
時代を過し、ともかくにも
「主権在民」「民主主義」街道
を走らされた中学時代の自分
達にとつての第一問は想像だ
にしなかつた設問でした。第
二問、屁理屈をつけて百字以
内記すも得点はゼロ。正解
は一九四七年（昭和二十二年）
制定の現行教育基本法第一条
（教育の目的）をそのまま記
すと九十八文字。「教育は人
格の完成をめざし、平和的な
国家及び社会の形成者として、
真理と正義を愛し、個人の価
値をたつとび、勤労と責任を
重んじ、自主的精神に充ちた
心身ともに健康な国民の育成

を期して行わなければならない。
」この二問の出題は、私
にとつて慈愛に満ちたところ
の兄弟を感じた小中学校の
「先生」から、教育指導者として
の「高校教師」を否応なく
意識させられた事になりました。
戦前、戦後の教育の基
本方針の比較を理解させる問
いであつたのです。昨今の教
育現場に於ける未履修問題の
発覚は、高校教育に携わる指
導者達の「阿り」と「無自覚」
に慨嘆している者であります。
教育基本法の改正が論議さ
れている今こそ、改めて戦前
の教育勅語、現在の教育基本
法を縮小ことに意義を感じる
のではないのでしょうか。最後
に私は、二高の応援団規定に
基く公選第一期の応援団長で
ありました。昨年末の母校の
応援団未組織は、賢明なる在
校生諸君の知恵とは思われま
せん。クラブ活動、応援団活
動を通じ、伝統ある名門仙台
二高で、自主的精神に充ちた
心身ともに健康な高校生活を
送る事は、正に教育の基本方
針に則つた人格完成の一環で
ある事は言を俟つまでもない
事を付して拙文とします。

同窓会副会長

高14回卒 磐井 裕



高14回「ひとよし会」会長
の笹気光寿郎君より、同窓会
の理事に推薦しておいたので
評議員会の決定に従うように
と厳命され、日頃より作つた
借りが多すぎ、弱みからつい
承諾してしまつた次第です。
「ひとよし会」は母校八十
周年記念を契機に参集して以
来続いており、会名は14の読
みで「ひとよし」ではありま
すが、会長笹気光寿郎君の人
柄を現してふさわしく、皆気
に入っております。世話役の
館林国勝君が創りました、読
み込み都々逸「ひとよし」ど
うし、ときにはあおう、よい
ておもいで、しみじみ」と、
そのままに仙台と東京で交互
に開催しております。
百余年の歴史を誇る母校の
同窓会理事、それだけでも自
分には荷が重いのであります
のに、現状は諸般困難な状況

にありその重さにつぶされる
思いであります。
高校生時代は定期戦の応援
に、山登りに、そして日に数
度の昼飯に夢中でありました。
廊下に張り出される試験成績
の一〇〇番までの順位に、悪
友と常に一〇一番だと言ひ争つ
ておりました。浪人をして再
挑戦のための内申書を頂きに
母校を訪れた折り、旧担任の
松原先生から「太ったな」と
のお言葉、元気で何よりと励
まされたと思ひ「はい、おか
げさまで」と答えましたとこ
ろ、「浪人して太つて受かつ
た試しがないぞ」と一言。脳
天気は昔からであります。そ
んな出来損ないの生徒であり
ました。
それでも仙台二高を誇りに、
校歌と応援歌を愛唱し、只々
同窓と言うだけで無条件に、
先輩を敬い、後輩をかわいが
るそんな思いを持ち合わせて
おります。
理事を仰せつかった以上、
目をつぶり、歯を食いしばつ
て、任期の二年間走り抜ける
所存でありますので、よろし
くお引き回しの程お願い申し
上げます。

モンゴル国ウランバートル市 第54学校 ホロスレン学校長 仙台二高訪問 印象口述筆記録

(1)訪問日時

二〇〇六年十一月二日(木)

午後三時～四時半

(2)面会者

仙台二高 柏葉校長

渡辺教頭の両先生

(3)同行者

鈴木壮夫(高11回)

鈴木美恵子

ツラレゲル(通訳)

(4)訪問目的

鈴木夫妻はモンゴルとの草の根交流団体「ホランの会」の会員で今回ホロスレン学校長の日本訪問に際し、自宅のホームステイの他、仙台市での教育環境と施設を視察していただくため母校にご無理をお願いしました。

(5)第54学校

三地区に校舎があり、生徒

数は約五千人、教師は約二百人。一年生から十一年生までの公立学校。日本の小・中・高の一部の一貫教育が同国では主流。五年生で英語、七年生で第二外国語が必修(日本語を学んでいる生徒は二七〇人)。横綱・朝青龍は同校OB。ホロスレン学校長は一九五八年の女性。モンゴル国立大学卒業。

(6)モンゴル・ウランバートル第54学校

ホロスレン学校長の仙台での教育環境施設の案内
十一月一日～二日と松島・仙台を案内しました。松

島では菊池健三さん(高11回)に大変お世話になりました。塩釜まで船に乗ったのですが客は我々四人だけ、のんびりと内海を楽しんでおりました。今年六月、第54学校を私達は訪問し視察させていただきました。いろいろなので学校長の言われる経済的格差から生じる教育環境の不整備は理解できます。

(7)ホロスレン学校長の

仙台二高訪問印象記録
東京地区では中学校三校を見学しました。高等

学校は今日が初めてです。仙台二高の歴史の重さと水準の高さを感じました。日本の高校は生徒達が学ぶための環境を良くすることに皆が協力し働いていることを知りました。先生達の働いている環境も良いです。一人づつの机が職員室にあり、学科ごとの準備室や面談室があったのにも驚きました。

今まで男子校だったから、男の子たちの体力向上のための部活が活発なのも素晴らしいことです。柔道部・剣道部・サッカー場・野球場・バレー

ボール・バスケットボール等の施設が立派で、手入れも行き届いている。特に柔道部の歴代部員の名前が木札に書かれ、掲げられていることに驚きました。それを見てもっと頑張る気力が生れてくるので、今勉強している生徒にとって良いことだし、何年も前に卒業した生徒にとっても「私の母校」という誇りが持てると思います。

一番素晴らしいと思ったのは図書館でした。蔵書の多さもさることながら、生徒達に必要とされる本や、新しい本や、先生達が勧める

を向上させることができると感じました。そして又、卒業生の美術作品が飾られていることも素晴らしい。学校の中を卒業生の絵画や彫刻や壁画で飾ることは後輩に良い影響を与えます。

生徒達の様子も見学することができましたが、生徒が自習している姿がすごかった。物理の実験室で先生がいなくても、発表の準備をしている姿を見て素晴らしいことだと思った。自習室を見て、モンゴルにはこのようなものがないので良いアイデアになりました。パソコン教室には一人

仙台二高・校長室にて



本等を紹介するコーナーもあったことです。こういう図書館をモンゴルでも創りたいという気持ちになりました。モンゴルでは本が少ないので生徒達がいくら本を読みたいと思ってもかなえられないのです。家庭も広げて素晴らしいと思います。野球やサッカーをやる広い敷地があるからこそ、生徒の体力

校長先生から頂戴した「手拭い」という物も学校としての特徴、日本の文化というものが感じられました。校長、教頭先生には貴重な時間をいただいて、案内・説明をして下さったことに厚く感謝しております。

以上 筆者 鈴木美恵子

よりよい会報作りにご協力を!

去る七月開催の総会において、役員改選が行われました。新しい理事の中で、役割分担を決めました。「会報」は笹氣・米竹が担当します。

これまでの会報は、高橋前副会長が原稿をまとめて、校内幹事の先生に一任する方式で発行されていきました。今回、担当を受けるにあたり、より会員諸兄に関心をもって読んでいただける会報を目指して、衆智を集めたいと存じます。

学校の状況や現役生徒の活躍ぶりは、これまでどおり掲載されていますが、これまであまり掲載されていない、卒業年度ごとの会合の報告や、以降の会合予定を、より多く取り上げたいと考えています。特に、

三十歳代、四十歳代の一番忙しい年代の会員は、集まる機会が少ないと思われまますので、この企画を利用していただけたらと考えます。

これまでどおり、会員の寄稿を歓迎しますが、基本的に「会員相互の情報交換の場」として、活用していただけるようにして行きたいと、思っています。各会期の幹事さん、よろしく願います。

また、在仙の会員で、会報の編集に興味のある方で、お手伝いをいただける方を募ります。いろいろな制約の中で、斬新なアイデアで、会員のための会報作りを協力いただけたらと考えます。(笹氣)

仙台二高同窓会総会後の動き

- 7月1日(出) 同窓会定期総会開催
- 11日(火) 理事会開催①
- 26日(水) 教育長宛て抗議文を提出
- 8月11日(金) 理事会開催②
- 24日(水) 臨時理事会開催③
- 9月9日(水) 臨時評議員会開催
- 16日(出) 中学校長、進路指導主任、PTA会長宛てに書簡発送
- 25日(月) 理事会開催④
- 10月6日(金) 西澤会長、知事に面会
- 13日(金) 川島教授に面会 (佐伯副会長、佐藤理事)
- 27日(金) 理事会開催⑤
- 30日(月) 三浦副知事に面会 (西澤会長他) 教育特区を要請
- 二高の工事強行抗議文、アンケート結果に対する意見を求める書面等も提出
- 11月13日(月) 理事会開催⑥
- 20日(月) 臨時理事会開催⑦
- 23日(水) 河北新報に意見広告掲載

同期会報告

44会平成十八年度総会

44会平成十八年度総会が平成十八年九月十五日に大観楼にて行なわれた。出席者は、以下のとおりである。

- 阿部 昭男、猪股 文治
- 池田 公喜、石井 敏夫
- 鹿目 泰、兼本 宏

- 木村 中外、佐藤 登
- 斎藤温次郎、鈴木 和夫
- 鈴木 桂二、鈴木 経郎
- 瀬戸 健也、平 亨
- 高橋 信雄、高柳 洋吉
- 民野 嵩 (敬称略)

古龍会近況

中43回卒 高橋 篤郎

第四十五回の総会を平成十八年十一月十一日傘寿を超えた十九人の会員(県外から三人参加)がホテル法華クラブに集まり、足腰の不具合の方が多くなったので昨年より椅子席とし、一人一人近況を報告し歓談・飲食と楽しい時を過ごしました。校歌・凱歌・万歳を三唱しお互い健康維持を祈念し再会を約して解散しました。

第四十五回古龍会参加者

- 阿部 正宏、相田 正二
- 秋保 茂、荒木喜一郎
- 安藤文次郎、伊藤 公吉
- 伊藤 栄雄、伊藤 実
- 小野由可理、近江 吾郎
- 小室 義一、斉藤 勲
- 澤田 和博、清水 浩
- 庄司 直弥、高橋 篤郎
- 勅使河原安夫
- 水谷 敏、石井 敏夫

この会に毎年元気な顔を見

せていた古龍会副会長の鈴木良也君の姿がありませんでした。良也君にはかねて病氣療養中のところ平成十八年八月十日逝去されました。享年八十一歳。葬儀は八月十二日仙台青葉区新坂町の称光寺において関係者多数出席の上しめやかに執り行われました。喪主は奥様的美智子様。彼は永く母校仙台二高の数学の教員をしておられました。葬儀では古龍会を代表して小野由可理君が以下の弔辞を捧げました。

弔辞

良也君、あなたとは小学校から中学校まで一緒に、社会に出てからも進む道は違いましたが、八十歳を過ぎるまで共に学び共に遊び共に語った親しい友達として、あなたの葬儀に参列して弔辞を読むことはとても悲しく寂しいことです。

子供のときから良也君、ゆかちゃんと呼び合い、背の小さい者同士励まし合って勉強し、仙台二中に合格したとき喜び合った嬉しさは今も忘れません。

良也君はすべてに優秀でし

だが、算術、今の数学はズバ抜けていて、とてもかなわらないなあと思つたことでした。長じて数学教師の道を選び、その道を歩み続けたのも当然だと思います。

ただ惜しむらくは、戦後の混乱期でその豊かな才能を十分伸ばす研究者の道に進むことができなかったことはあなたにとっても心残りであつたらうとお察しいたします。

私事にわたりますが、私がシベリヤ抑留中の昭和二十三年夏思いがけず良也君から「生きて帰って来いよ」との励ましの葉書を受け取ったとき、何としても元気で日本に帰って良也君はじめ友達みんなに会わなければと勇気づけられたことは一生忘れません。

社会人になってからは、私は法曹の道を、良也君は教育者として歩み続けましたが、毎年の小学校、中学校の同級会ときには必ず顔を合わせて話し合い、昔の厳しかった教育のことなど語ってつきまosenでした。

あなたは晩年は胃の手術をしたとかで、酒も余り飲まず体調が万全ではないようでした。

だが、それでも同級会の集まりには必ず出席して苦しい様子を見せなかつたので、まだまだ大丈夫だと思つていたのですが、急な計報を聞いて驚くとともに深い悲しみに打ちひしがれました。

才能豊かな良也君にとって必ずしも希望通りの人生ではなかつたでしょうが、静かな落ち着いた家庭を持ち、自分の好きな数学を教える仕事を続けたことは幸せではなかつたかと思つております。

良也君、あなたの厚い友情はいつまでも忘れられません。これからも何かにつけてあなたのことが残つた友達の間で話に出ることでしょう。

良也君、長い教育のお仕事、本当にご苦労様でした。

どうぞ、安らかに眠りください。

平成十八年八月十二日

友人 小野由可理 合掌



第45回 古 龍 会 於 ホテル法華クラブ 平成18年11月11日

高三十一回生同期会開催の案内

今年度の同窓会報春季号でも案内したとおり、平成十九年度の高校三十一回生同期会について、左記のような形で開催を予定している。当日の昼は定期戦(予定)を観戦し、夜は勝利の美酒を飲み交わしたいもの。たくさんの三十一回生が集まってくれることを期待したい。参加の連絡をぜひお願いしたい。

平成十九年度 高三十一回生同期会 (予定)

日 時 平成19年5月12日(土) 18時～
会 場 仙台ホテル
会 費 六千円
連絡先 遠藤吉夫(勤務先 仙台二高)
メール yoshi0-3625@sen2-h.myswan.ne.jp
(電話・FAXは同窓会直通で)
(文責 高三十一回 遠藤吉夫)

ご案内

来春の在京ピンピン会 (高11回卒業)

2007年2月8日(木) 18:00~20:30
会場: ホテル メトロポリタン エドモント
(千代田区飯田橋3-10-8)
開催通知の葉書は年内に郵送予定です。
ご参加お待ちしております。

会 員 短 信

和賀井敏夫先生 学 士 院 賞 受 賞

北社会顧問 中40回卒 青山 史朗

平成十八年七月三日、上野公園の一角にある日本学士院の授賞式に、和賀井先生の友人代表として出席の榮に浴した。

定刻十時。控室には日本を代表する多くの碩学が居並ぶなかに、和賀井先生の晴れ姿と山川民夫・西澤潤一両学士院会員のお顔を拜見して、同窓として誇らしい限りであった。雅楽による国歌奏樂のなか、両陛下がご臨場になられ、九人の受賞者が次々と登壇し賞状を授与される際に賞賛の拍手が起こり、厳肅な中にも和やかな雰囲気の中であった。次いで七月十九日「北社会」主催の記念講演会がエドモントホテルで行われ、学士院賞選考委員の山川先生から受賞

経緯の紹介があり、和賀井先生の宮中午餐会でのご体験など面白いエピソードが披露された。

また、同期の南條・小野寺・村上三氏が出席され、旧制二高明善察長として活躍された和賀井さんのことや、熱烈な二高魂の話は若い会員諸君に



西澤先生 山川先生 和賀井先生 青山

大きな感銘を与えてくれた。最後は和賀井先生の健闘を祝い、校歌斉唱して会を閉じた。

日本学士院賞を受賞して

順天堂大学名誉教授

中42回卒 和賀井敏夫

今回、「超音波診断法の創始と発展に関する研究」なる研究課題で、日本学士院賞受賞の光栄に浴することができました。この受賞は「北社会」(在京仙台二高同窓会懇談会)

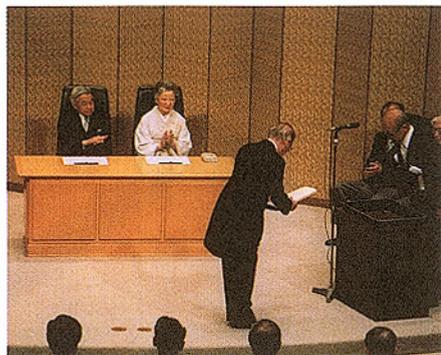
の皆さんのご支援、日本学士院会員で日本学士院賞受賞者の山川民夫(中39)、西澤潤一(中44)両先生のご指導、さらに同級の「十七会」(昭和十七年卒)の皆さんの絶え

ざる激励の賜であり、この誌上をお借りして心より御礼申し上げる次第でございます。この日本学士院賞というのは、大学関係者以外は一般的には余り関心が無い賞であります。純粋の学術賞として最高のもので言われております。この日本学士院賞は明治四十四制定され、第五回(大正四年)野口英世、第六回(大正五年)本多光太郎、第四十三回(昭和二十八年)吉田富三、野副鉄男、成瀬政男、第六十四回(昭和四十九年)西澤潤一、第六十六回(昭和五十一年)山川民夫、第六十七回(昭和五十二年)高橋信次先生など、東北、仙台に縁のある方々だけでも、教科書的な錚々たる学者が受賞されております。また、湯川、朝永、福井、江崎、小柴野依の諸先生は、日本学士院賞受賞後にノーベル賞を受賞しておることからも、本賞の権威が察しられます。またこの賞は、私が四十年間この研究を行った創立六十一年の私学の順天堂大学において、今回の受賞が初めてであることからも、この賞の希少価値が伺われます。

私は受賞して見て、この賞がこんなにも重大な賞であることを初めて知ったのです。それは、青山史朗さん(中40回)の紹介にもありますように、七月三日、授賞式が両陛下ご臨席の下に日本学士院で挙行されたことも、この間の事情を物語っております。当日授賞式に先立って、受賞者の受賞研究の概要の両陛下に對するご説明が展示資料に基づいて行われ、ご質問に答える光栄に浴しました。授賞式には山川、西澤両学士院会員や青山さんの参列を頂き、仙台二高、「北社会」の威力を示すことになったのは感激でした。さらに、午後には両陛下のお招きにより、宮中のお茶会に出席し、陛下より改めて受賞のお祝いのお言葉を賜りました。その後、午餐会に招待され、両陛下初め各宮様方には、各テーブルをお回りになりながら親しくお言葉を賜る等、無上の光栄に恐懼感激致したのでした。夜には、文部科学大臣主催の受賞記念晩餐会に出席、私は受賞者代表として大臣に對する謝辞と共に研究裏話など致しました。また、この晩餐会席上、例の

NHK「プロジェクトX」
超音波診断機エコーが話題となったのには感激しました。

研究内容は、学士院の受賞理由によりまずと、「和賀井氏は戦後間もない昭和二十五年、世界に先駆けて超音波診断法の開発に着手、欧米の研究先駆者たちが数年にしてその困難性から研究を中断放棄してしまった中で、数々の苦難を重ね、人体に害を与えることなく人体の断層像を描写できる超音波診断法の実用化に成功、その後、日本のみならず世界の超音波診断法の発展普及に多大なる貢献をされたのであります」とあります。また、今回の受賞に関する新聞発表前に報道各社からの電話取材を受けました。その中に、私が今回の受賞者の中で八十一歳という最高齢であることに對し、いささか冷やかしく気分での、「最高齢受賞者のご感想を」と聞いてきた新聞社がありました。私は電話口で「馬鹿者」と怒鳴りたくなったのを抑え、「医学の研究には基礎医学と臨床医学とあり、臨床的な新しい診



断法なり治療法が、世界的に認められ実用化されるのは長年月を要するものである。今回の超音波診断法を例にとると、超音波診断法が役に立ちそうだと分かるまでに三十年、それが一般的に利用されるまでにさらに十年、計四十年を要したのである」と、最近の忙しい世の中にあつて、このような息の長い研究もあつても良いのではとの意味も含め答えたのですが、果たして若い新聞記者に理解してもらえたかどうか。

この受賞を祝う「北社会」が七月十九日盛大に開催され、最後に皆さんと一緒に高らかに校歌を歌いながら、仙台二中二高の伝統の素晴らしさを思った次第です。以上。

蔵王・熊野岳遭難碑

慰霊登山のこと

高6回卒 清野 英一

平成十八年十月十六日午前九時半、蔵王刈田岳駐車場、「天気晴朗なれど、風強し」時折ガスって視界を遮ることあり。この中高校4回卒月田文和氏と私・清野、山岳部OB同士の二人は熊野岳の仙台二中（仙台二高）遭難慰霊碑に参るため馬の背に歩を踏み出した。

学校の歴史の中で忘れることの出来ない「蔵王遭難」にまつわる最近の動向として、会報37号38号「会員短信」で当時の渡辺文敏校長遺児宏氏の鎮魂の思いと、一連の行事は詳細を伝えてあり重複を避け、今回慰霊登山を行うに至った経緯とこれからについて記します。

蔵王慰霊登山を続けていた渡辺宏氏と、今回仙台二高とを結びつける役目を果たした4回卒元読売論説委員千葉英之氏が米仙、慰霊登山に係った我妻道也氏、大友一郎君と一夕の懇談を持ち渡辺氏の近況を伺った。十二月卒寿を元気に迎えるようで仙台二高のことも時折気にかけておられるとのことで、誰言うとはなしに卒寿記念に関係者でメッセージを色紙にてお贈りしようということになった。

このことを一昨年の慰霊登山で渡辺氏をエスコートした山形在住月田氏に千葉氏が連絡し、「貴方も一筆」と依頼したところ、その夕べに私も参加したかった。その後慰霊登山もしていないが、出来れば清野君と行ってみたい意向と千葉氏から連絡があり、早速月田氏に応諾と実施の相談を入れたら、「渡辺氏が我々と慰霊登山をした十月十六日やりたいたいと思つ」との希望だった。得たりや応と、先輩の指定期八木山から山形に車を駆り慰霊登山に出かけたのです。

渡辺氏慰霊登山の折、ご遺族の方とも交流が出来たのですが、蔵王慰霊のことに月田一家が深く係ったことは余り知られていないので触れておきたい。昭和二十五年山下校長時代、遭難三十三回忌がご遺族と学校とで実施され、回忌碑が遭難現場慰霊碑の隣に建立された。この碑の制作者が八幡町月田石材店名工と言われた月田文左衛門氏、一郎氏父子で文和氏の祖父、ご尊父に当たつた。そして建立の為、碑を背負つて登山したのが仙台二高山岳部橋本承平氏らで文和氏もメンバーでした。このことは新聞で報道され、当時中学三年であった私の仙台二高志望の動機ともなった。

閑話休題、ご遺族の思いや当時の校長ご一家の思いと共に、月田一家にとつても蔵王のことは特別な感慨があるようです。八十年忌の折、山麓川崎町で開業される山家慎治先生からも多大な厚志を頂戴したり、言えば伝統という精神形成の為に「歴史」が如何に影響しているかでしょう。

さて、慰霊登山、風があつたがコンディション絶好で慰霊碑到着、月田家の庭の花をささげ合掌し、「清野おんつあん（どういうわけか山岳部の私の呼称）俺たち、あと十年は大丈夫、渡辺登山のこの

日、毎年クツペツチャ」との提案があり勿論異論なく、かつ先輩の言に逆らわず「んだね」で決まり。二人で毎年実施することにしたのです。

平成十八年は記念すべき？ 慰霊登山となるかもしれぬ。

来年慰霊登山の時、仙台二高は共学実施になつてハズ。波辺先生縁り柏崎高校も共学化されたが、「良き伝統の継続」もあるやに聞きます。

いろんな感慨を抱き帰途の馬の背を歩きました。同窓会員中に共学後の「ありかた論議」もあるが、学校がどうなるうとも、有為の人生を無念に散らした先輩の鎮魂に伝統を背負い、遺族の消息も少なくなつた今、慰霊登山は続けよう。



慰霊登山の月田文和氏 平成18年10月16日

共学化問題始末記

高6回卒 清野 英一

ここ数年、と言うより、平成十五年十二月同窓会報36号以来、会員の耳目を集めた「仙台二高の共学化」。

36号14ページ「共学化の説明会紛糾」とあり、「行政からの説明不足云々とし、同窓会の集まりとしてはかつてな

勿論、歳自覚、馬の背を徘徊する恍惚の同行二人と言われぬよう注意。共にと、ご希望の向きあればどうぞ、私的に毎年十月十六日登山します。

◆連絡先

電話〇二一三〇五九二二〇
仙台市太白区八木山本町
二一二十 清野 英一

く紛糾し騒然たる説明会となり、「」の騒然状態を意識して演じた本人です。

草莽の輩が運動を認知させるには、騒ぎにして目を向けさせるしかない、ちょっと乱暴とは自覚のうえ。

マッチ・ポンプをここでまた演じることになるかと忸怩たる思いがありますがね、物には「始めと終わりが在るべきだ」、終わりの意識的に良識を持ってしなければならぬ、と言うことで一筆啓上。

残念!! であるが...ここで、反対派二つに分かれる。間接制民主主義で敗れたよ、では直接制民主主義で住民投票やっか?

私は、何とか別学を残せな

意地張って世間を騒がす思

こもった説明をしてほしいよ、今流行りで言えば「ガバナビリテイ」に欠けているよ、

は避けねばならぬ。かくて、神風は吹かず、住民請求「風とともに去りぬ」

賛成者の方から見れば「憎っくきやつは高 師直、仁木正」ですが、民主主義の社会だ、言いたいことは言わして

勝っても負けても相手を讃えてエールの交換、文武一道の伝統を遺憾なく發揮して無念の矛を収める。

もらえらると同窓会に働きかけたら、七二五%は共学化に反対だ、です。これは賛成者の皆さん、べき論、せひ論前に前提として認めて欲しい。

友愛また大事な伝統だ、伝統を守るためやったが、仲間同士で「同窓会人事を巡り場外乱闘」はてな?

そこで、これも民主主義の範囲でと運動を立ち上げた。戦術は、県当局(知事、教育委員会、県議会)に要望書、陳情活動、請願書提出を同窓

別学は残せないとホボ決まり共学反対を共闘した同志には悪いが、負けつぶりも良くなきや、おとこが廃るべき。教養とは何ぞや!

会決議で会長名で行った。結果、ご存知のとおり「請願採択」で破れたね。

寛恕の精神、トレランス。「女子のいる二高なんて母校じゃねえ、同窓会費なんてはらってらんねえ」なんて、勉強させよ!

お尻のなんとか小さくしないで新生二高のあるべき姿に支持と支援お願いよね。

閑話休題

聞けば、同窓会報は「発行部数一五、〇〇〇部」郵送だと。

なんと、会費納入三、〇〇〇名。

出すもの出して言いたいこと言おう。

ふざけ言葉でこめんない。少し、こゝらで肩の力を抜いて気楽に、気軽な和気藹々の同窓会をリベンジしましよ

う。「フレ、フレ、二高」

「恩讐の彼方」と言うこともあります。

これからの運営に一致協力し、流石二高と言われようではありませんか。

一人良い子になる気はないが、運動当時から、デモや生徒の動員は反対でした。

気持ち分かるが、来るべき入学式などで、ピラマキ、横断幕などのパフォーマンスはやめて欲しいよ、かっこ悪いはオトコの恥だ、悪あがき、やってきたことの値打ちがさがるぜ、曰「生徒は 静かに勉強させよ!」

アジアの伝統について

高20回卒 木下 彰

二年間の四国勤務を終了してから、月に一回は四国に出向き、「歩き遍路」を楽しんでいる。

空海大師に縁が深いとされるお寺からお寺を巡り歩くものだが、年配の方々の風韻にふれるのも魅力ながら、若い

諸君や海外からの留学生も多く、彼等と交流するのも趣が深い。

「何が面白い？」と沢山の方から質問され、「信心深い地元の方から『お接待』と言って果物や、場合によっては水もいただく。これがなんとも

「三居沢発電所と

二宮不二磨先生」

高26回卒 佐藤 健二
(旧姓・貝山)



誠に突拍子もない題のため、母校で美術の時間に二宮先生から指導を受けた同窓生ならびに美術部OBの皆様からお叱りを受けるのを覚悟の上で、筆を進めることにする。私事

ながら、昨年、ついに五十歳の大台に達し、とうに人生の折返し点を過ぎてしまったという実感を強く持った。最近では、過去を振り返る回数が以前より多くなったように感じる。とりわけ、高一の芸術の時間は美術を選択し、その上、美術部員でもあったことから、二宮先生のことをよく思い出す。美術部入部のきっかけは、絵が好きだったことと、子供の頃から周りの方に

ありがたい。時には、高齢の農夫の方から百円玉をいただき「お遍路さん、私の代りにお参りご苦労様。」と言われる感動する。」と回答する。

衣食住のすべてにわたり少欲知足であることは、釈尊みずから修行してきたものと言っ

て良いだろう。豊かさとは何か？ 文明が人類にもたらしたものは何か？ 考える昨今である。

絵を褒めていただいて自信を持ち、高校入学後は本格的に油絵に挑戦したいとの思いがあったからである。しかし、後述のとおり、その自信は見事に崩れ去った。

話を溯ると、物心つく前から、父は電力会社の変電所に勤務しており、そのすぐそばに社宅があったことから、私は変電所のトランスの音を守歌がわりに育った。変電所は、父の神聖な職場であると共に、常にそこで働く父の背中に重ね合わされ、私にとって特別な存在だった。いつの日か、それを大きな絵に表現したいという思いはずっと持ち続けていたが、美術部に入ったことで、その夢が実現する

ことになった。県高校美術展に出品する目的で、一年の冬休みに、三居沢発電所を五十号の油絵に描いたのである

(この発電所は隣接して変電所があり、変電所を前面に、発電所の建屋をバックに描いた)。約二週間の冬休み中、朝から晩までほぼ毎日、自分の持てる力を総動員し、丹念に描き込んだ自信作のはずであった。休み明けに、二宮先生に作品を見ていただくこと

になり、美術部の部室で、先生の評価を固唾を呑んで待ったことを今でも鮮明に覚えている。最初は、目を細めて私の絵を見ていた先生は、やがて少し厳しい表情になり、「君の絵は基本がなっていない。遠近法ではこういう形になるはずがない」という旨のことを言われ、具体的な構図も示されたのだった。ところが、私は、先生に指導を受け

たにもかかわらず、それを真摯に受け止めることができず、そのとおり修正しないでしまった。当時の私の絵は、デフォルメを多用し、実際にどう見えるかよりも、自分の主観を重視した独りよがりのものであったと思う。県高校美術展

に出品予定の割当作品数より、部員のそれの方が多かったため、当然、私の絵は落とされるところが、意外にも、先生から出品するお許しを得たのである。それだけではない。この直後、美術の授業で描いたクロッキーに対し、ラージA(ABC評価の最高点)をサインして下さった。その後、

これは大事な宝物として私の部屋を長く飾ることになった。自分の見の狭さに比べ、何と懐の深い方であったのか。このようにご配慮をいただいたにもかかわらず、高三まで、

かろうじて美術部に籍だけはおいたが、自分の絵の才能のなさを痛感し、私は完全に絵筆を折ってしまった。

時代はずっと下り、最近、同窓会のホームページにリンクしてあった吉田敦彦氏(高七回卒)が作成された「二宮不二磨先生のページ」で、初めて先生の作品を拝見すると同時に、ご経歴も知ることができた。その作品は、誤解を恐れずに言えば、いろいろな意味で奥行き深い重厚な具象画であり、人生に「もし、くたら、くれば」があれ

ば、再び十六歳に戻り、先生に心から謝罪し、ご指導をしっかりと受けたいと思つづくと思う。それから、美術の授業時間に二宮先生が生徒を引率して佐々木正芳氏の作品展に連れて行き、模写をさせたことがあったが、吉田氏の解説を見て、その辺の事情もよく理解できたことも、この紙面をお借りしてご報告する。最後に、筆を置くにあたり、この思い出話に最後までお付き合いいただいた同窓生がいらっしゃったとしたら、心より感謝申し上げる次第である。

前号の一部訂正とお詫び

十八年度春季号17ページ掲載の会員短信欄に訂正があります。「私の一生」続編の執筆者ご氏名を真船正夫氏のところ真舟正夫氏と誤って記載してしまいました。訂正させていただきます。更に発行日が迫り編集上の都合で原稿の全部を掲載できず、執筆者の意図が十分にお伝えできなかったことと併せて心からお詫び申し上げます。

同窓会総会報告

去る七月一日(土)に、ホテルメトロポリタン仙台を会場にして、平成十八年度同窓会定期総会が開催されました。出席者は百二十名でした。その式次第は次の通りです。
(十七時～4F千代の間)

○同窓会総会

開会の辞

会長挨拶 高橋正道副会長
 学校長挨拶 柏葉浩明校長
 来賓紹介 名簿による紹介
 叙勲者紹介
 瑞宝双光章
 池田公喜(中44回)
 黄綬褒章
 大場周造(高3回)

議長選出 高橋正道副会長

途中から西澤潤一会長
 協議

第一号議案

平成十七年度事業報告

第二号議案

平成十七年度決算報告

- (1) 一般会計
- (2) 特別会計
- (3) 監査報告

第三号議案

平成十八年度事業計画案
 第四号議案

平成十八年度予算案
 ・予算の執行について、理事会で検討すること
 第五号議案

共学化問題について
 ・種々の意見が提起され今後の検討に委ねた。
 第六号議案

役員改選について
 ・理事として七名が選任

- 佐伯康全、笹氣光祐
- 鈴木邦夫、米竹 隆
- 佐藤 茂(以上再任)
- 麻喜宏雄、磐井 裕(以上新任)

・会計理事
 志賀從興(新任)

・監 事

- 熊谷真人(再任)
- 犬飼健郎(新任)

閉会の辞

○同窓会懇親会

(4F千代の間)
 (十九時～二十一時)

開会の辞

水見幸久(高29回)
 校歌斉唱
 当番幹事代表挨拶
 遠藤龍地(高17回)

乾杯
 東海北陵会代表
 高橋 規(高11回)

アトラクション

ビー・バップス演奏
 応援歌斉唱
 万歳三唱
 前副会長 高橋正道

閉会の辞
 槻山敏昭(高30回)

評議員会報告

総会の審議を受けて、去る九月九日(土)十四時から、北陵館にて、評議員会が開催された。

○評議員会

物故者への黙禱
 会長挨拶 西澤潤一会長
 議長選出 朝倉評議員が就任

報告

- ①総会で選出された理事から佐伯康全、麻喜宏雄、笹氣光祐各氏が副会長に任命
- ②予算の執行は、今後理事会で、項目別に検討することにする。
- ③高橋正道氏にはOBとして協力をお願いする。

協議

第一号議案

顧問・参与制の検討委員会(仮称)の設置について
 ・設置することになった。
 第二号議案

共学化問題の今後の対応について

- ①知事宛に『教育特区』の要請書を提出する。
- ②同窓生の出身中学校長宛に反対の文書を出す。
- ③アンケート結果を公文書で関係箇所に出す。
- ④意見広告を、時期をみて掲載する。
- ⑤川島教授へのアプローチをする。

閉会 十七時十五分

現役生徒の活躍

将棋部 小野寺 聡

試合後、脳がじわりと熱かったのを覚えている。約二時間の戦い、勝勢の終盤、悪あがきともいえるような相手の一手。しかしその一手に私は判断を誤った。気がつけば、私の王は詰まされていた。ただ、脳が熱かった。

京都に集まった強豪達。その中で私達は団体戦準優勝という結果を修めた。私にとっでは初めての全国大会であり、さらに決勝戦まで勝ち進めたというのは、一生で一度の経験

国体に出場して

ヨット部 高城 航一

正直、以前の私はヨットというものがあまり好きではなかった。では何故ヨットに乗るのかと問われれば、それは私がヨットに乗ることを親が望んでいるからだだった。

しかし、今回国体に出場し、他のどの大会とも違う独特の雰囲気、県の代表として国内

験だったのかもしれない。今回、この大会を通して多くの事を学べたのは当然だが、それに加え多くの人達と交流できたのが非常にうれしかった。

私は今までの大会で、将棋について学んだことは何度もあったが、対局者や大会に来た人達と話し、仲よくなった事は無かったからである。この大会で、私達は準優勝という結果を得たが、それ以上の経験をさせてもらったように思う。

最後に、実力の劣る私を引

スポーツ最大の舞台に立てる喜び、思うような結果を残せなかった悔しさを感じ、今の私は一生ヨットを続けようと思えるようになってきている。

そしてこの思いは、私にとっ



第30回全国高等学校将棋大会将棋部
第42回全国高等学校将棋選手権大会
平成18年8月2日(水)〜3日(木)

張ってくれたチームの仲間、またこの大会の参加において、同窓会の方々からも多くの心遣いを頂いたことに感謝を申し上げます。

今日の私の大きな原動力となっている。ヨット部に限らず一人でも多くの後輩諸君が国体やインハイなどに出場する事を私は望む。それは君達に必ず良い影響を与えてくれるはずだ。

最後に、今回の私の国体出場は、ヨット部顧問の先生方やOBの先輩を始めとした関係者の皆様の協力なくしてはありえません。この場を借りて、お礼申し上げます。

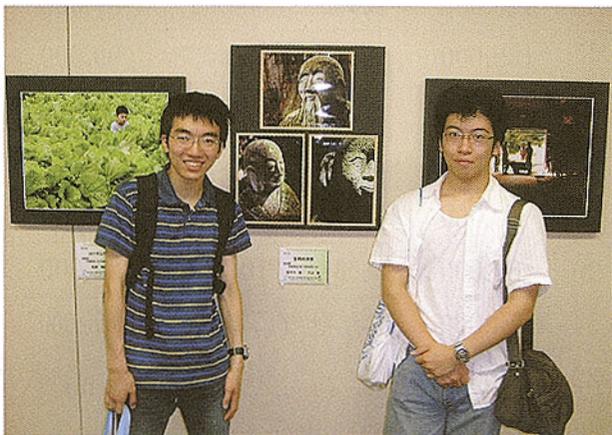
全国大会「高文連」に出品して

写真部 佐々木 謙

写真。それは私にとって運命的な出会いでした。最初はそれほど興味はありませんでしたが、自ら撮影した写真が一つの「作品」になるにつれ私はすっかり魅了されたのです。日常世界をカメラというフィルターを通して別世界を表現できることが衝撃的でありました。

二年、三年時には念願の全国大会に出品しました。ハイ

レベルの写真が並び、被写体の鋭い「見方」「捉え方」に驚かされ、写真に対する視野を広げることができました。また県内外の人たちと交流することもでき、貴重な経験であると共に大切な思い出となりました。二年半に及ぶ部活動が私にとってどれほど充実していたかは言及するまでもないでしょう。



最後になってしまいました。写真部を応援し支えて下さった先生方、先輩、特に顧問の峯村先生には一方ならぬお世話になりました。後輩諸君には写真を楽しみながら更に上を目指し、何より写真と永く付き合ってほしいと思います。そして皆様には今後の写真部の活躍を温かく見守って下さるようお願い申し上げます。

大阪インターハイに出場して

水泳部(競泳)主将 横田 敦史

入学して間もない頃、インターハイ出場を果たすのは少々苦しい事ではないかと思っていた。当時の顧問の石井先生からは、「インターハイに出場して活躍する」という事を常々言われていた。うわべではいつも気持ちの良い返事をしながらも、内心では反対の事を考えていた。確かにずっと水泳を続けてきたので、「いつかはインターハイに」と心の中で思っていたのだが……

こんな気持ちが明確に変わったのは一年生の新人戦の頃からだだったと思う。確かにまだ道は険しかったが、希望も持てるようになった。最大の転機は昨年の東北総体、リレーでインターハイ出場が果たせなかった事だ。

あれほど悔しかったことはない。「来年こそはこんな思いをしない」と、それから殆ど毎日のように泳ぎ、テスト期間中も構わず練習をした。その甲斐があつてか、今年はリレーでインターハイに出場することができた。

しかし、ここまでの道程は自分一人の力ではどうにもならなかった。水泳は個人競技だと言われるが、僕はそれをはつきりと否定したい。同学年にも後輩の中にもライバルがいて、お互いに励まし合っただからこそ、そして、縁の下で支えてくれる仲間がいたからこそ頑張れた。

インターハイでは4位(東北勢の中で3位)という成績だった。予選敗退ではあったが、これはなんと大会前との大会前のエントリー時より20位も順位が上がっているのだ。この成績も皆のおかげであつて大舞台でも信頼でき

る仲間がいたことを幸せに思っている。

最後に、いつも水泳部の面倒を見てくださった先生方にも感謝したい。前顧問の石井先生をはじめ、白井先生、飛鳥先生、黒澤先生本当にありがとうございました。またこれから水泳部をよろしくお願ひします。

後輩達には、僕等以上の健闘を期待しているということをつけ加えてこの文章を終えたいと思う。

おかげであつて大舞台でも信頼でき



部 活 動 の 成 果

運 動 部 成 績

大会名 部 名	平成17年度		平成18年度		大会名 部 名	平成17年度		平成18年度	
	新 人 大 会		定期戦	総合体育大会		新 人 大 会		定期戦	総合体育大会
硬 野 球 部	秋季仙塩リーグ戦 仙台二3-3富谷 谷 仙台二5-6仙台一 仙台二9-10磐ヶ岡 仙台二11-7仙台東		負け 仙台二 仙台一 6-7x	春季仙塩リーグ戦 仙台二7-0泉 7回コールド 仙台二0-21仙台南 5回コールド 仙台二1-4富谷	水 泳 部	東北新人大会 400mR(平澤、足立、早坂、横田) 第4位 400mMR(早坂、足立、藤倉、横田) 第8位 50m自由形 平澤 香 第2位 50m自由形 早坂 一希 第3位 100m自由形 早坂 一希 第7位 100m平泳ぎ 藤倉 直己 第8位 200m自由形 足立 一樹 第11位		東北大会 400mR(平澤、足立、早坂、横田) 第4位 予選 8:43.00 標準記録突破により、インターハイ出場権獲得 決勝 3:44.14 第8位個人賞 50m自由形 平澤 香 第2位 予選31.87、決勝24.73 インターハイ出場権獲得 50m自由形 横田 敦史 第5位個人賞 100m自由形 早坂 一希 第7位個人賞 予選24.91、決勝25.11 インターハイ出場権獲得 400mR(平澤、足立、早坂、横田) 第4位 予選341.62 第44位 50m自由形 平澤 香 予選24.87 第30位	
	軟 野 球 部		勝ち 仙台二 仙台一 8-1	1回戦 仙台二22-1泉 2回戦 仙台二3-5仙台		<水球> 県新人大会 仙台二9-2栗田 2年連続優勝	東北選手権 第6位 県室内選手権 第2位		<水球> 県総体 仙台二10-4栗田 東北大会(第5位) 仙台二7-17萩原西 仙台二26-0青森山田
陸 上 部	<競泳> 県新人大会 400mR(平澤、足立、早坂、横田) 第2位 400mMR(早坂、足立、藤倉、横田) 第3位 50m自由形 平澤 香 第2位 50m自由形 早坂 一希 第3位 100m自由形 藤倉 直己 第3位 200m平泳ぎ 藤倉 直己 第3位 200m自由形 足立 一樹 第3位 以下東北大会出場 800mR(横田、足立、平澤、早坂) 第2位			<競泳> 県総体 400mR(平澤、足立、早坂、横田) 第2位 400mMR(早坂、足立、藤倉、横田) 第3位 800mR(横田、足立、平澤、早坂) 第3位 50m自由形 平澤 香 第2位 50m自由形 藤倉 直己 第3位 100m自由形 早坂 一希 第3位 100m平泳ぎ 藤倉 直己 第3位 200m平泳ぎ 藤倉 直己 第3位 200m自由形 足立 一樹 第3位 以下東北大会出場	水 泳 部	東北選手権 第6位 県室内選手権 第2位		<水球> 県総体 仙台二10-4栗田 東北大会(第5位) 仙台二7-17萩原西 仙台二26-0青森山田	
	水 泳 部					東北選手権 第6位 県室内選手権 第2位		<水球> 県総体 仙台二10-4栗田 東北大会(第5位) 仙台二7-17萩原西 仙台二26-0青森山田	

部 活 動 の 成 果
運 動 部 成 績

Table with columns for Department Name (部名), Year (平成17年度/平成18年度), and Event Type (新人大大会/定期戦/総合体育大会). Rows include Soccer (サッカー), Rugby (ラグビー), Handball (ハンドボール), Basketball (バスケットボール), Volleyball (バレーボール), Tennis (テニス), Soft Tennis (ソフトテニス), Table Tennis (卓球), Badminton (バドミントン), Archery (弓道部), Judo (柔道部), Fencing (フェンシング), Mountaineering (山岳部), Skiing (スキー部), and Judo (柔道部).

部 活 動 の 成 果

学 芸 部 成 績 (平成18年11月まで)

部 名	成 績	部 名	成 績
写 真 部	第5回宮城県高等学校夏季写真コンテスト (7.17 於気仙沼向洋高校) 優良賞「真夏のトンネル」3年3組 佐々木 謙 “ 「春の日に浮かぶ」1年5組 加藤慶一郎 審査員特別賞「光一ひかりー」3年7組 三上諒 審査員特別賞「寄り道」 3年7組 三上諒 第30回全国高等学校総合文化祭京都大会写真部門 参加(8.1～8.5 京都市) 「古刹の表情」 3年3組 佐々木 謙 3年3組 三上 諒 東北道路写真コンテスト 優秀賞「囚われ」 3年3組 佐々木 謙	吹奏楽部	第39回アンサンブルコンテスト仙台青葉支部予選 サキソフォン四重奏 金賞(代表) 打楽器三重奏 金賞 クラリネット六重奏 銅賞 木管五重奏 銅賞 金管四重奏 銅賞 第28回東北吹奏楽の日演奏会(仙台高校と合同演奏) JBA 東北支部主催管打楽器ソロコンテスト南東大会 スネアドラム 會田瑞樹(3-2) 金賞(代表) アルトサキソフォン 成澤克麻(2-4) 金賞(代表) テナーサキソフォン 原 塁(2-1) 銀賞 トロンボーン 今田勇佑(2-3) 銀賞 第39回アンサンブルコンテスト宮城県大会 サキソフォン四重奏 金賞 (成澤克麻・佐藤公平・原 類・庄子 翼) JBA 東北支部主催管打楽器ソロコンテスト東北大会 アルトサキソフォン 成澤克麻(2-4) 金賞 スネアドラム 會田瑞樹(3-2) 金賞 宮城県管打楽器ソロコンテスト(宮城県吹奏楽連盟主催) マリンバ 會田瑞樹(3-2) 金賞 第19回定期演奏会開催(7/1 宮城県民会館) 全日本吹奏楽コンクール第49回宮城県大会 仙台青葉・泉地区予選 大編成の部 銅賞
物 理 部	第59回宮城県高等学校生徒理科研究発表会 優秀賞「水の水面滴下時における音色の変化」 山國 遼・大築 貴洋・小林 和樹・葛 友宜	合唱部	宮城県高文連合唱専門部 発声講習会へ参加
化 学 部	第59回宮城県高等学校生徒理科研究発表会 優秀賞「酸化チタン(IV)をクロマト的に用いた アントシアニンの分解について」 櫻井 和嘉・大嶋 一生・櫻井 明徳 優秀賞「銅(II)錯イオンに関する研究」 日置壮一郎・高橋 拓嗣・藤原 惇志 山崎 高寛・下山 浩	囲碁部	第30回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会宮城県 大会(6.23～25) 団体 3位 鹿野・鈴木・庄子 第7回宮城県高校囲碁九路盤大会(10.20) 個人 4位 鹿野裕太郎
生 物 部	第59回宮城県高等学校生徒理科研究発表会 優秀賞「陸上植物を利用した水質浄化装置の開発 ～川や湖の自然浄化作用をアクアリウムに」 2年4組 渡辺 統 2年7組 大槻 泰史 1年8組 小野寺孝興 1年8組 高瀬 和寛	将棋部	第42回全国高等学校将棋選手権宮城県予選大会 団体戦 優 勝 佐々木祐一郎・小野寺 聡・成田 憲俊 第42回全国高等学校将棋選手権大会(京都大会) 団体戦 準優勝 佐々木祐一郎・小野寺 聡・成田 憲俊 第19回全国高等学校将棋竜王戦宮城県予選大会 A組 優 勝 佐々木祐一郎 準優勝 成田 憲俊 第19回全国高等学校将棋竜王戦(福岡県) ベスト8 佐々木祐一郎 第23回宮城県高等学校将棋新人戦 A組 優 勝 成田 憲俊 3 位 佐々木祐一郎 (全国大会、東北大会へ) A組 3 位 室 達也
地 学 部	第59回宮城県高等学校生徒理科研究発表会 優秀賞「ヘロンの噴水装置から空気の色を学ぶ」 池田 翔 北陵祭「新型投影機とエアドームによる プラネタリウムの公開」 高井 拓実他		
英 語 部	8/23(水) 第6回宮城スキット甲子園 クリエイティビティ賞受賞 11/1(水) 第53回宮城県高等学校英作文コンクール に参加		
美 術 部	仙台市内高校美術展 優秀賞 3年7組 伊藤 智明		

PTA・同窓会合同新年懇親会 開催のお知らせ

平成19年の「PTA・同窓会合同新年懇親会」が、以下の要領で開催されます。多くの皆様のご参加をお待ち致しております。

日時：平成19年1月12日(金) 18時20分より
会場：ホテルメトロポリタン仙台
仙台市青葉区中央1-1-1
TEL 022-268-2525

会費：5,000円

参加をご希望なされる方は、12月25日までに、FAX または電話でご連絡下さい。

仙台二高同窓会事務局 北陵館内
(月・木・金 10:00~15:00)
FAX 022-221-5686
TEL 022-221-5651

事務局だより

ご招待をいただきましたので、去る十月十八日、ホテルオークラにて開催されました在京同窓会総会に参加をさせていただきました。この盛大な会に、在学中にともに柔道

部で汗を流した当時の主力メンバーが、在京を中心に五名も駆けつけておりました。卒業以来三十余年ぶりの、私としまして感激の再会となりました。時を忘れて近況を報告し合う会は四次会におよび、二高で培った友情の深い絆を改めて知り、感謝の思いです。

秋の褒章者

黄綬褒章 高6 國井 清文

秋の叙勲受賞者

平成18年度救急医療功労者
厚生労働大臣表彰
高4 佐藤 重行

旭日中綬章 高6 丸森 隆吾
瑞宝重光章 高3 増本 健
瑞宝双光章 高4 中島 文男

訃報

12 / 12	11 / 14	5 / 22	4 / 20	2 / 19	15年	4 / 12	2 / 27	2 / 27	1 / 26	1 / 7	14年	12 / 4	8 / 12	1 / 1	13年	8 / 1	12年	9 / 4	8 / 1	10年	2 / 1	8年	6年	9 / 3	3 / 25	3 / 25	元	不明	
船久保英彦殿	小宮書之助殿	針生富士雄殿	江口 龍夫殿	森 二三吉殿	中井亀久男殿	我妻 武雄殿	及川 正和殿	吉田 健治殿	村松 金藏殿	奥井 鉄男殿	曾根 淳殿	石垣 昂殿	奥井 鉄男殿	石垣 昂殿	吉田 迪雄殿	原 彊殿	高野 知彦殿	高野 知彦殿	原 彊殿	山田 忠雄殿	山田 忠雄殿	上川名誠一殿	上川名誠一殿	石垣喜八郎殿	石垣喜八郎殿	木村林之助殿	木村林之助殿	佐藤 健夫殿	佐藤 健夫殿
中44回	中31回	高11回	中33回	中27回	中27回	中42回	中45回	高11回	中27回	中40回	中39回	中47回	中40回	中47回	中44回	中25回	中25回	中29回	中34回	中34回	中29回	中29回	中26回	中27回	中34回	中34回	中34回	中34回	

心からご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

今号にも皆様から多数の投稿を戴き、心より感謝申し上げます。更に在校生の活躍をお伝えできますことも大変光栄に感じております。

今後とも多方面から尚一層のご支援・ご指導をお願い申し上げます。

(高43回 黒澤 幸治)